

異国の家庭料理提供

わっと 地域食堂、大学生も協力

料理をテークアウトする住民



の協力でインドネシアや南米の家庭料理を提供し、訪れた住民が異国の味を楽しんだ。

地域食堂は、食を通じ世代間の交流を図るため、わっとが不定期に実施している。今回は、わっとが準備した食材を同サークルが調理し、配膳や受け付けの手伝いに釧路公立大学の国際交流部（山口純輝部長）の学生4人も協力した。

提供したのはチャーハンに似たインドネシア料理「ナシゴレン」と、南米やヨーロッパで親しまれている「レンズ豆スープ」。ナシゴレンは米をナンプラーで味付けし、香りの強いパ

クチーはあえて入れずに日本人の舌に合うよう工夫した。

50食を用意し、食堂がオープンすると予約や飛び込みの客が次々と訪れ、開始から1時間30分ほどで完売した。近くに住む浜木利光さん（80）はおかわりもしたうえで「ナシゴレンは初めて食べた。ホタテも入っていてとてもおいしい」と料理を頬張っていた。

本間代表は「今回は飛び込みのお客さんが多く、食を通じて地域とのつながりを感じた。今後は子供にも来てもらえるような企画を考えたい」と話していた。

（橋本梓）

NPO法人くしろ・わっと（小林友幸理事長）は17日、多世代型地域コミュニケーション「笑顔のニユー・タウン」（大川町7）で第16回地域食堂を開いた。道教育大釧路校異文化理解サークル（本間紗耶佳代表）